研究班番号【 32 】

大阪弁の言い回しに違いはあるの？　～歴史・地形との相関性～

国語班：髙野　莉桜、池原　楓子、鍛治　侑希

１．はじめに

高校入学後、様々な地域の人と出会い、同じ大阪府内でも言葉の言い回しに違いがあることに気が付いた。そこで、「昔、大阪が藩で分かれていた名残や、山や川などの地形によって、地域ごとに言い回しの差が出るのではないか。」と考察し、大阪府内の言葉の言い回しの違いと大阪の歴史には相関性があるのではないかという仮説を立て、アンケート調査を行い、分布図を作成して、調査することにした。

２．検証方法

高津高校の２年生を対象にアンケートをとった。

① 「来ない」をどう言うか。→「きーひん」「こーへん」「けーへん」「こやん」

② グッパ（組の分け方）をどう言うか。

③ 語尾の種類でどちらをよく使うか。→「～やんけ」「～やんか」

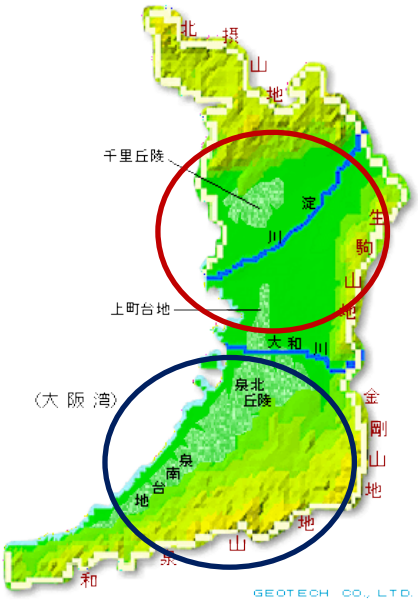
３．結果

① 「こーへん」が北部、「こやん」が南部に分かれ、「きーひん」「けーへん」は少数派だった。

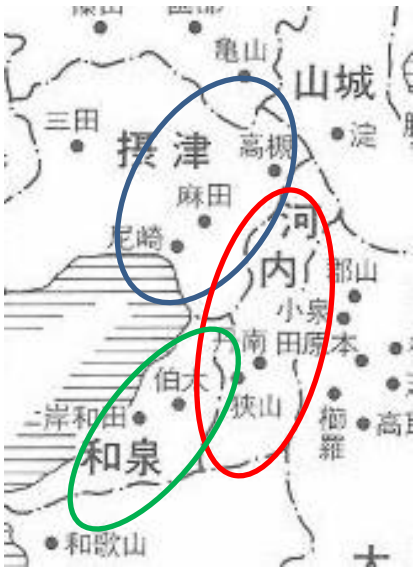
② 「グッとパで分かれ」が北部、「グッとパで分かれましょ」が中部、「グーッとーパッ」が南部に分かれていた。

③ 地形や地域による境目はわからなかった。

アンケート①



アンケート②



４．考察

アンケート①より、「こーへん」と「こやん」が大和川を境に地形によって分かれていると察した。

アンケート②より、順に、摂津、河内、和泉の国によって分かれていると考察した。

アンケート③より、地形や地域ではなく、男女により違うことを発見した。
男女間での差があり、その比は「やんか」が男：女＝３：８で「やんけ」が男：女＝８：２であった。また「やん」の起源が「じゃん」であり、「じゃん」の起源が平安時代の「にてあり」であることが分かった。「じゃん」は山梨県で発祥し、そこから静岡県、神奈川県と広がり戦後に東京で使われるようになった。

５．まとめ

大阪が藩で分かれていた名残や、地形、地域ごとに言い回しの差が出ることが分かった。
また方言に歴史的背景があり、言葉は様々な影響を受けて次第に変化し現代に伝わっているということが分かった。

６．参考文献ならびに参考 Web ページ

中山緑朗、飯田晴巳、陳力衛、木村義之、木村一著(2009)『みんなの日本語事典』202～203ページ　明治書院発行

井上史雄著(1998)　『日本語ウォッチング』34～50 ページ　岩波新書発行

大阪府の地図
http://www.7key.jp/data/prefectures/img/oosaka.html

藩の地図
https://www.shiseki-chikei.com/幕末三百藩-城-陣屋/近畿地方の諸藩/

大阪府の地形地図
https://www.jiban.co.jp/tips/kihon/ground/prefecture/osaka.htm